

ア. 調査-1・2について

1. あなたは本校の共同研究の進め方を、	全 体 (%)				年 齢 別 (実人数)				
	20	40	60	80	20-30	31-40	41-50	51-60	61-70
○ だいたい理解している。	24			70,5%	4	1	6	2	2
○ まったくわからない。	7			20,6%		1			
○ よく理解している。	3			8,8%	0	0			0
2. あなたの校内研修に対する取組みは、									
○ 消極的であると思う。	26			76,4%	4	7	3	3	3
○ 普通であると思う。	7			20,6%		1			1
○ 積極的であると思う。	1			2,9%	0	0			0

ウ. 調査-6について

6. もしあなたが授業研究をすすめることになったら、どのように考えますか。	全 体 (%)				年 齢 別 (実人数)				
	20	40	60	80	20-30	31-40	41-50	51-60	61-70
○ 順番や枠からの約束手なで仕方がない。	21			61,8%	1	1	8	1	1
○ 教員として当然、別に抵抗感はない。	10			29,4%		1	1		
○ 研究の機会を喜び。	3			8,8%		1			0
○ 自分の力を認めてもらえる機会だと思う。	0			0	0	0	0	0	0
※ その他	1			2,9%					学校訪問時の態度で十分

成ではやむを得ないことと思われる。ここではむしろ全体的に消極的な態度の方が問題であろう。このような実態なので、一層校内研修を進める必要を痛感する。

践するというを全員が答えているところに問題点がある。なぜ、もう少し積極的になれないのだろうか。

エ. 調査-5について

イ. 調査-4について

4. 本校の校内研修の問題点はどこにあると思いますか。	全 体 (%)				年 齢 別 (実人数)				
	20	40	60	80	20-30	31-40	41-50	51-60	61-70
○ 研修意欲がわからない。	19			55,8%	1	3	3	3	3
○ 研修時間が取れない。	18			52,9%		1	1	1	1
○ 研修が一部のものです、みんなのものになっていない。	13			38,2%			1	1	1
○ 共通理解が不足している。	12			35,3%					1
○ 振だけがはきついているみたい。	11			32,3%					1
○ 学校運営計画に明示して進めるべきだ。	9			26,4%					1
○ 研究計画に無理がある。	6			17,6%	0	1			
○ 共同研究よりも個人研究を盛んにすべきだ。	4			11,7%	0	1	0		
○ 研究を進める組織に障害がある。	3			8,8%	0	1			0
○ 職員の配布が遅く当日配布では共通理解にならない。	0			0	0	0	0	0	0
※ その他	1			2,9%	0	0	0	0	資料部会が空調

5. あなたは本校の校内研修にどのような態度で参加していますか。	全 体 (%)				年 齢 別 (実人数)				
	20	40	60	80	20-30	31-40	41-50	51-60	61-70
○ 共同研究の中でみんなと一緒に向上したい。	21			61,8%	1	1	7	1	1
○ 校内研修と中教研があるので、どちらか一方にしても向上したい。	10			29,4%		1	1		
○ 共同研究よりも個人研究を進めたい。	9			26,4%					1
○ 研究よりも健康のためにスポーツに励んだ方がよいと思う。	4			11,7%		1	2	0	
○ 校内研修は教師の義務と考え、抵抗はない。	3			8,8%	0				
○ 共同研究でみんなに正しく認められたい。	0			0	0	0	0	0	0
※ その他	2			5,8%					全体的にやも臭いのか、臭いでず、若い人の意見を聞き上げ盛り上げてほしい。

調査-1・2でみられる消極的な態度は、調査-4でも同じ傾向を示している。ここで特に注意しなければならないのは、41歳～50歳の学校の中では中核となるべき年齢層の意欲の低さである。これは何とかしなければならない大きな問題である。

調査-5では、ようやく先行きに明るさの見える結果が出た。「共同研究の中でみんなと一緒に向上したい」と考えている人が多いことがわかった。この積極的な意欲をさらに伸ばして行かねばならない。

どうしたら意欲を高めることができるかということは、簡単なことではその対策にはならないが、実践を積み上げることがまず大切になるのではないかと考えている。

ここで一つ問題となるのは、若年層とベテラン層の一部に「研修より健康のためにスポーツに励む」という考え方がみられることである。やはり、機会をとらえて研修の必要性を訴えて行かねばならない。

調査-6でも、今までと同様の傾向がみられる。ここでは、51歳以上のいわばベテラン教師が、授業研究は「順番」や「前からの約束」によって実

オ. 調査-3について

3. 研究協議会で発言しやすいのは、	全 体 (%)				年 齢 別 (実人数)				
	20	40	60	80	20-30	31-40	41-50	51-60	61-70
○ 教科部会である。	21			61,8%	1	1	1	1	1
○ 学年会である。	6			17,6%	0				
○ その他の小グループである。	6			17,6%	0				
※ その他	3			8,8%					発言しやすい場はない、発言の場は随分とこども同